



元貴族院副議長侯爵蜂須賀正韶叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和六年一月二十日

内閣總理大臣臨時代理
外務大臣男爵幣原喜重郎

内閣

めくれず

昭和六年一月廿一日
昭和六年一月廿一日
昭和六年一月廿一日

五

昭和六年一月十九日 内閣書記官長 燧

内閣書記官 燧

内閣總理大臣 西 賞勳局總裁

元貴族院副議長從二位勲三等侯爵蜂須賀
正韶敘勲、件別紙、通議定候條此段
允裁ヲ仰ク

賞勳局

昭和六年一月十七日

賞勳局總裁

書記官

議定官

可 否



敘勳議案

元貴族院副議長從二位勳三等侯爵蜂須賀正韶
右者明治三十年五月式部官ニ任官以來
宮内官在職二十有二年餘其間能ク

賞勳局

職務ニ精勵シ大正七年三月襲爵ト同
時ニ貴族院議員ニ列セラレ各種重要
法案及豫算案ノ審議協賛ノ任ニ膺
リ同十三年一月貴族院副議長ニ勅任
セラレ爾來昭和六年一月マテ滿七年
間議事順序ノ決定議案ノ審議方
法或ハ議場ノ整理等ノ重要ナル憲政
上ノ事務及之ニ伴フト生スル各派交渉
委員會等議員ニ對スル處理方法等
ヨリ内部取締事務ニ至ル迄議長ノ

謀議畫策ニ參加シテ之ヲ補佐シ以
テ貴族院議長ヲシテ其ノ重職ヲ完
カラシムルニ努メ其ノ功績顯著ナリ
ト認ム仍テ内閣總理大臣ノ申牒ヲ
勘査シ勲等ヲ擬議スル左ノ如シ
叙勲二等授旭日重光章

賞
勲
局

陽
二

昭和六年一月十三日

内閣總理大臣臨時代理

外務大臣男爵 幣原 喜重郎



賞勳局總裁 下 條 康 磨 殿

申 牒

貴族院副議長從二位勳三等侯爵蜂須賀正紹儀ハ別紙功績書ノ通功績顯著ナル者ニ候處本月十五日貴族院副議長任期滿了ト可相成ニ付此際特ニ其ノ功勞ヲ録シ勳二等ニ叙シ旭日重光章ヲ授賜ノ儀詮

113
6.1.13

議相成度

内閣

功績調書

從二位勳三等侯爵 蜂須賀 正 韶

右者明治三十年五月式部官ニ任セラレ同四十一年十一月主獵官ヲ兼任シ大正三年九月朝香宮御用掛被仰付同五年四月朝香宮御用掛被免ト同時ニ皇后宮主事兼式部官ニ轉任シ同七年五月依願免本官竝兼官ト爲ル迄在官實ニ二十有二年餘其ノ間宮中ニ於ケル諸儀式及狩獵ノ事務ニ携ハリ或ハ側近ニ奉仕シ又大喪使事務官、大禮使事務官、故元帥海軍大將威仁親王葬儀祭官副長等被仰付精勵以テ其ノ任務ヲ果シ、大正七年三月襲爵被仰付貴族院令第一條第二號ニ依リ貴族院議員ニ列セラレ各種重要法案及豫算案ノ審議協贊ノ

内閣

任ニ當リ同十三年一月黒田貴族院副議長ノ後ヲ襲ウテ貴族院副議長ニ勅任セラレ爾來今日ニ至ル克ク徳川議長ヲ補佐シテ議院ノ秩序維持及議事ノ整理ニ盡瘁シ憲政ノ發達ニ寄與スル所尠カラス其ノ他臨時教育行政調査會委員被仰付或ハ日本赤十字社常議員ニ當選シ孰レモ其ノ職責ヲ完ウスル等功績顯著ナリ

昭和六年一月十五日

貴族院書記官長 成瀬 達

下條賞勳局總裁殿

本院蜂須賀副議長敍勳ノ件ニ關シ別紙御送付申上候間可然御取
計被下度及御依頼候也

貴族院

貴族院副議長蜂須賀侯爵本月十五日ヲ以テ任期滿了ノ後退職セラルル趣ニ有之候處凡ソ副議長ノ職務ハ議院法上議長故障アル場合ニ始メテ之ヲ代理スルモノナルカ之カ爲メニハ實際上議長ノ行フ議事整理議院ノ事務等ニ付テノ方針取扱等ヲ知悉シ直チニ議長ト同一ノ權能ヲ行使シ得ル狀態ニ在ルニ非サレハ議長故障ノ場合俄ニ議長トシテノ職務權限ヲ代行スルコト能ハス依テ内部ニ於テハ議事及議院ノ事務ノ畫策決定等ニ付キ副議長ハ常ニ議長ト同一ノ關係ニ在ルコトヲ必要トシ爲ニ慣例上上奏其他外部ニ對スル事務及内部關係ノ事項ニ付テ常ニ議長ト共ニ副議長ノ決裁ヲ經テ始メテ之ヲ執行スルコトトナリ居リ從テ議事順序ノ決定議案ノ審議方法或ハ議場ノ整理等ノ重要ナル憲政上ノ事務又之ニ伴テ生スル各派交渉委員會等議員ニ對スル處理方法等ヨリ内部取締事務等ニ至ル迄影ノ形ニ伴フ如ク議長ノ謀議畫策ニ參加シ之ヲ補佐スルモノニシテ蜂須賀侯爵又就職以來

今日ニ至ル迄七年ノ長期ニ互リ内ニ在リテ貴族院議長ヲシテ其ノ重
職ヲ完カラシムルニ努メタルノ功績ハ議會制度ノ運用上洵ニ偉大ナ
ルモノアリト認メラレ候

侯爵ハ大正十三年二月二十三日勳三等瑞寶章ニ敘セラレ本年一月十
五日ヲ以テ七年ノ任期ヲ終了スルヲ以テ以後半月ニシテ勳二等瑞寶
章ニ敘セラルルノ定年ニ達シ而モ後任副議長ノ勅任一月十六日以後
トナル場合ニハ議院法第十五條ニ依リ十六日以後ニ於テ副議長ノ職
ヲ退カルルコトナルヲ以テ當然勳二等瑞寶章ニ敘セラルル定年ニ
達スルモノナルカ副議長ニハ前陳ノ如キ憲政上顯著ナル功績アル事
實ヲモ御考慮ノ上此際特ニ勳二等旭日章ニ敘セラルルノ恩命ニ接ス
ル様御取計相成度此段及御依頼候也

セラレ本年一月十
一シテ勲二等瑞寶
正一月十六日以後
一於テ副議長ノ職
叙セラルル定年ニ
者ナル功績アル事
ルルノ恩命ニ接ス

117

第十五條 右議院、議長、副議長、任期滿限
二連任之後任者、勅任せらるゝ其ノ職務ヲ
繼續スルニ

貴族院副議長 從二位勳三等侯爵 蜂須賀 正 韶

明治四年三月八日生

明治三〇 五十四 任式部官

敘八等

七三 敘從四位

同 三三 一六 二六 敘七等

同 三六 六二 二二 敘六等

一三 一一 敘正四位

同 三九 六二 二二 敘五等

同 四〇 六二 二六 賜五級俸

同 四一 六一 一 改官制

内閣

明治四一 一一 二七 兼任主獵官

敘高等官五等

一三 二四 陞敘高等官四等 本官

賜三級俸 式部官

同 四二 二一 三三 韓國特使接伴員被仰付

同 四三 三一 一一 清國載壽殿下來航ニ付接伴員被仰付

四一 改宮内高等官俸給令

六二 二 賜二級俸

同 四四 一三 二三 陞敘高等官四等

賜一級俸

同 四五 六二 四 陞敘高等官三等 式部官

大正 元 七三一		賜三級俸
ハ一		大喪使事務官被仰付
ハ三一		儀式部員ヲ命ス
ハ三一		獨逸國皇族ハイレンツヒ親王殿下大喪儀參 列ノ爲來航ニ付接伴員被仰付
一ハ八		廢大喪使官制
一ハ一一		埼玉縣下行幸供奉被仰付
同 六二五		賜二級俸
七一ニ		故元帥海軍大將威仁親王喪儀祭官副長被仰 付
一ハ二二		大禮使事務官被仰付
大正 三 四一一		典儀部員ヲ命ス
同 四一一		廢大禮使官制
六二九		大喪使事務官被仰付
七二〇		儀式部勤務ヲ命ス
九一六		敘勳六等授瑞寶章
一三二四		廢大喪使官制
同 四一一		朝香宮御用掛被仰付
一ハ二二		陸敘高等官三等 兼官
同 四一一		大禮使事務官被仰付
一ハ三一		典儀部勤務ヲ命ス
一ハ三一		京都行幸供奉被仰付

内閣

大正	四一三二〇	敘從三位
	一二二七	賜一級俸
同	五二二一	廢大禮使官制
	四二〇	朝香宮御用掛被免
		任皇后宮主事兼式部官
		敘高等官三等
		賜二級俸
同	六一三二五	賜一級俸
同	七三二〇	貴族院議員ニ就職
		襲爵被仰付 (侯)

内閣

大正	七	五一一	陞敘高等官二等
		五一七	特旨ヲ以テ位一級被進
			敘正三位
			敘勳五等授瑞寶章
			依願免本官並兼官
同	八一〇二五		敘勳四等授瑞寶章
同	一〇七二三		臨時教育行政調査會委員被仰付
			官制廢止
同	九一六一五		銀杯一組ヲ賜フ (大正四年乃至九年事件ノ功)
同	一六五		日本赤十字社役員當選
同	一三六二二		大正十二年歌御會始講師被仰付
同	一三六一〇		大正十三年歌御會始講師被仰付

明治
 廿五年正月
 不足半片

✓

同 一六 貴族院令第十一條ニ依リ貴族院副議長ニ任

ス

三三 敘勳三等授瑞寶章

同 一六 敘從二位

昭和 三 一 昭和三年歌會始讀師被仰付

一六 一〇 金杯一箇ヲ賜フ

内閣